



池袋図書館 月刊情報誌

ふくろう通信

2017年9月号

9月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6 ☺	7	8	9 🎵
10	11	12	13	14	15	16 ☀
17	18	19	20 🎵	21	22	23 🎵
24	25	26	27	28	29	30 ☀

10月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4 ☺	5	6	7 ☀
8	9	10	11	12	13	14 🎵
15	16	17	18	19	20	21 ☀
22	23	24	25	26	27	28 🎵
29	30	31				

- ☀ マークのついている日はたんぼおはなしかいです。(午後2:30から2階ワークルームにて)
- ☺ マークのついている日はあかちゃんおはなしかいです。(午前11:00から2階ワークルームにて)
- 🎵 マークのついている日は工作会・スペシャルイベントがあります。(詳細は、次のページへ)

豊島区立池袋図書館

〒171-0014 豊島区池袋3-29-10

☎03-3985-7981

●開館時間●

平日 午前9:00~午後8:00

土・日・祝日 午前9:00~午後6:00

●休館日● (第1月曜日・第4金曜日)

【9月】 4日(月) 22日(金)

【10月】 2日(月) 27日(金)



今月のめだま



池袋図書館の秋！

今月の池袋図書館のおすすめの催し物のご案内です！
お誘いあわせの上、ぜひご参加ください。

★読み聞かせ講座★

9月20日（水）
午前11:00から12:00
池袋第三区民集会室
もうしこみはいりません。

読みきかせ講座
～子どもたちともっと絵本を楽しもう～

2学期が始まりました。9月の読みきかせ講座では、...
これからの季節におすすめの絵本や、池袋図書館に新しく仲間入りした絵本たちを
ご紹介します。 ぜひ、ご参加ください。

日時:9月20日(水)午前11時から12時まで
会場:池袋第三区民集会室
対象:学校や幼稚園で読みきかせをしている方
これから読みきかせをしたいと考えている方

参加費無料 お申込は、必要ありません。当日、直接会場へお越しください。
お問い合わせ: 豊島区立池袋図書館 TEL 03-3985-7981

けいろうの日
敬老の日

スペシャル
おはなし会

日時 9月23日(土)
ごご2時30分から3時30分

場所 いけぶくろとしょかん
2かい ワークルーム

もうしこみはいりません。あそびにきてくださいね!

いけぶくろとしょかん
でんわ03-3985-7981

★けいろうの日 スペシャルおはなし会★

9月23日(土)
午後2:30から3:30
2階ワークルーム
もうしこみはいりません。



ふくろう博士の 今月の調べてみよう！



月について調べてみよう！

* 9月は月の美しい季節です。

この機会に月を深く味わいませんか？

1. 月を楽しむ

『星と月の撮り方入門』 田中 達也 インプレス 【442 タ】

『月光浴』 石川 賢治 小学館 【L748 イ】

『こどもの行事しぜんと生活 9月のまき』 かこさとし 小峰書店【386】

2. 月を知る

『図解月の神秘』 野本 陽代 PHP 研究所 【538 ノ】

『月を知る！』 吉川 真 岩崎書店【446】

『月学』 稲葉 茂勝 今人舎 【446】

3. 月をめざす

『ムーンショット』 アラン・シェパード著 ディーク・スレイトン 集英社 【538 シ】

『月へ』 ブライアン・フロッカ 偕成社 【538】

『月へ行きたい』 松岡 徹 福音館書店 【538】

夏から秋へ 虫たちの話

蝉しぐれの中にひぐらしや、つくつく法師の鳴き声が際立つようになり、草むらからも虫の声が聞こえ始めると、秋はすぐそこに来ています。

最近では苦手な方も多くなってきていますが、日本では昔から虫たちを身近に置き、感じながら生活してきました。

虫の声を聴きながら、虫を愛する人たちの話や虫を愛する人たちが書いた本を読んでみるのはいかがでしょうか？

『バッタを倒しにアフリカへ』 前野ウルド浩太郎／著 光文社

『鳴く虫セレクションー音に聴く虫の世界ー』 大阪市立自然史博物館／編著

東海大学出版会

『ぼくらの昆虫採集』 養老猛司／監修 奥本大三郎／監修 池田清彦／監修 デコ

『虫めづる姫君ー堤中納言物語ー』 蜂飼耳／訳 光文社

『どくとるマンボウ昆虫記 改版』 北杜夫／著 新潮社

きょうか しょ ほん よ 教科書本を読もう！

『鹿よ おれの兄弟よ』

かんざわとしこ

神沢利子／作 G. D. パヴリーシン／絵

—5年生 国語 掲載—

ほっかいどう からふと ようしょうき す かんざわとしこ うた ふんしょう が か
北海道、樺太で幼少期を過ごした神沢利子の歌うような文章とロシアの画家

G. D. パヴリーシンの細密な絵が描く力強い生命賛歌です。

鹿を狩るシベリアの猟師の物語「おれの きる ふくは 鹿皮 おれの はく
くつも 鹿皮だ」「おれは 鹿の肉を くう / それは おれの血 おれの肉となる
/ だから 俺は 鹿だ」と始まるお話は、自然の厳しさと、狩る相手に対する敬意
にあふれ、大人も考えさせられるものだと思います。

親子で読んでみて、お互いどう感じたか話してみるのも面白いかもしれません。